

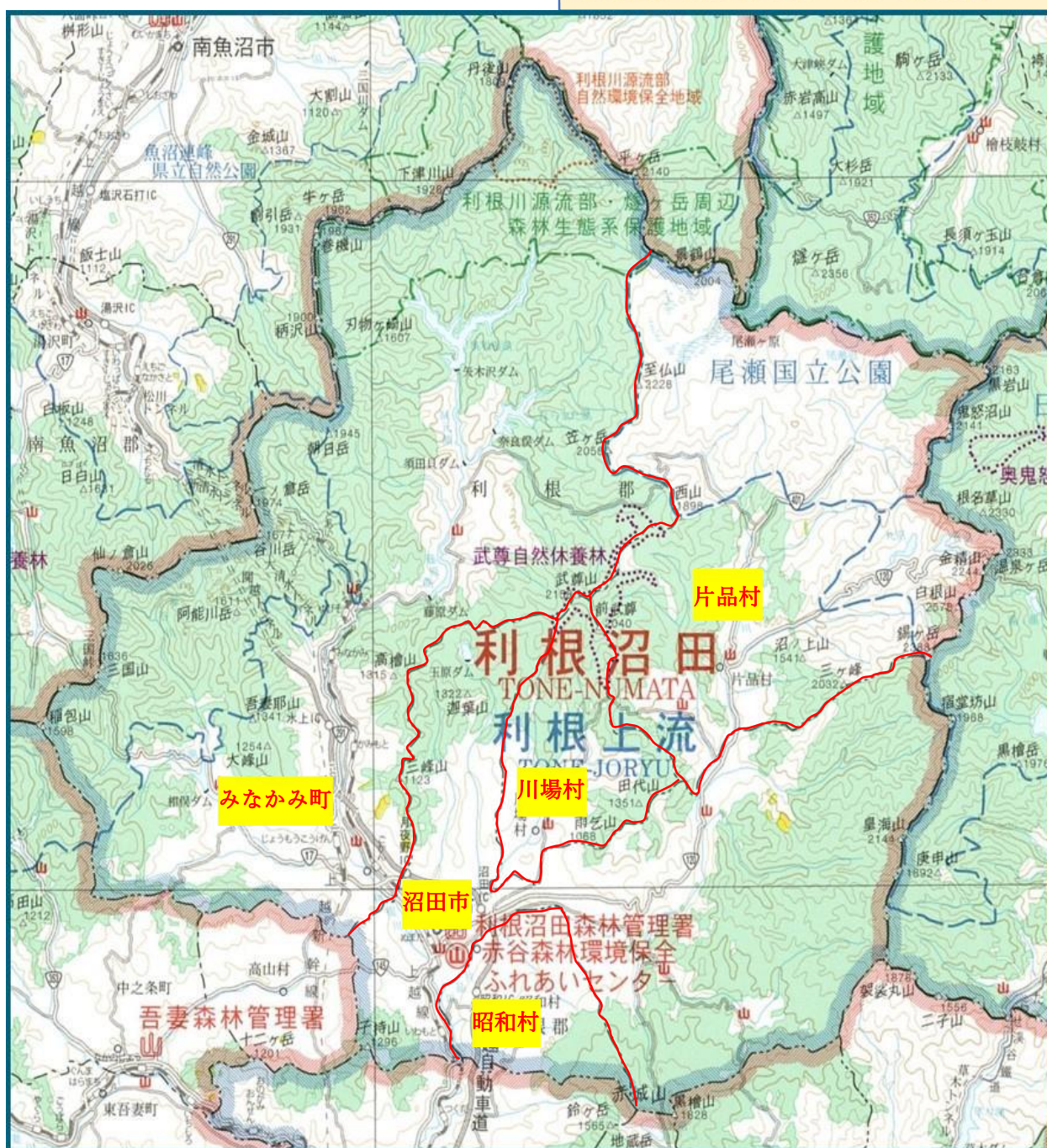
森林管理署長等が語る！

利根沼田森林管理署長 松下 英之

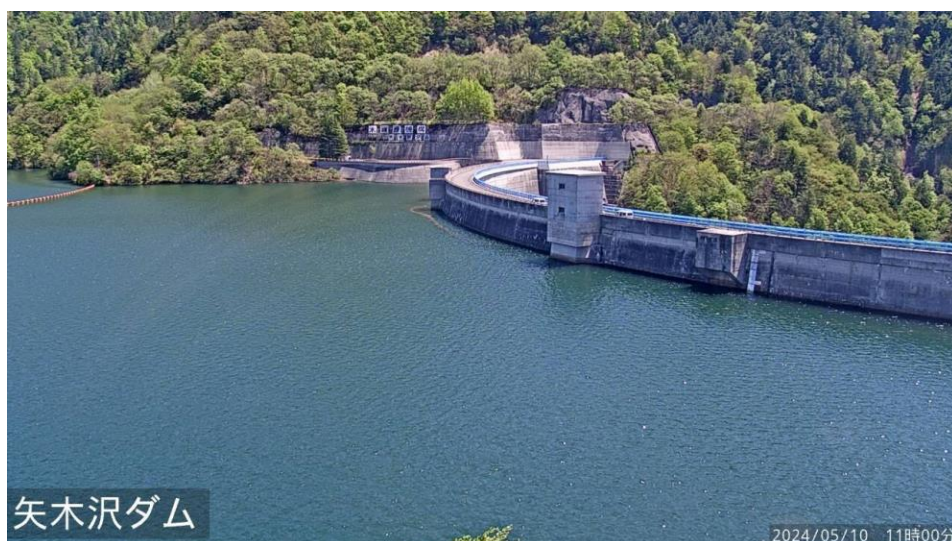
1 はじめに

利根沼田森林管理署は、群馬県の北東部、利根川上流域にある沼田市と利根郡4町村（片品村、川場村、昭和村、みなかみ町）の利根沼田地域を管轄区域とし、約9万7千haの国有林を管理しています。これは、同地域の総面積の約55%を占めています。

利根沼田森林管理署 管内概要図



また、当地域は、利根川の源流域にあたり、矢木沢ダムをはじめとし奈良俣、藤原、相俣、須田貝ダムなどが設置され、首都圏の水源地域となっています。



〔独立行政法人水資源機構沼田総合管理所ホームページより〕



〔独立行政法人水資源機構沼田総合管理所ホームページより〕

さらに、本地域は標高 250mの市街地から 2,500mの奥地山岳地帯にまで及んでおり、里地では農業が盛んに行われている一方、谷川岳や尾瀬のエリアも含まれるなど自然資源や温泉資源にも恵まれた観光地としても発展してきた地域でもあります。(尾瀬沼、尾瀬ヶ原は国有林ではありません。)

これらのことから森林管理署では、水源涵養機能をはじめ、自然維持、山地災害防止、森林空間利用といった公益的機能を重視した管理経営を行うとともに、森林資源の循環利用を旨とした木材の生産・供給を行っているところです。



【自然維持機能】〔谷川岳〕



【山地災害防止機能】〔川場町〕



【森林空間利用機能】〔沼田市〕



【木材生産・供給】

利根沼田地域の市町村は、「利根沼田広域市町村圏振興整備組合」(一部事務組合¹)を組織し、消防業務、養護老人ホームの設置・運営、文化会の設置・運営、一般廃棄物処理場整備のための準備を共同で実施するなど、連携・協力体制が醸成されていることもあり、利根沼田地区の5市町村長が一同に会して国有林野行政に関する意見交換を行う国有林野等所在市町村長有志協議会が毎年開催されているところです。

一体感がある利根沼田地域であります。もちろん市町村ごとにそれぞれ特色があり、森林管理署としては、各々の市町村の要望等を伺いつつ対応しているところです。

2 各市町村と森林管理署

各市町村の特徴と森林管理署の対応について紹介します。

(1) 沼田市

沼田市は、『森林文化都市』、『心豊かに暮らし、幸せを実感できるまち 沼田』をキャッチフレーズとしています。利根沼田地域の中核都市で、市街地は利根川とその支流により形成された日本有数の河岸段丘の上に広がっています。自然が豊かで野菜や果樹の栽培が盛んです。また、市の80%を占める森林の豊かな資源を生かした木工製品(桐下駄、湯飲み、茶箆など)が作られています。

森林文化都市については、平成2年に全国で初めて宣言されましたが、これまで具体的な取り組みが行われおらず、現在、その具現化に向けた検討が行われています。森林管理署としては、市民が森林とのかかわりを持つ手段として、国民参加の森林づくりの取組を提案する

¹ 市町村がそれぞれ行う事務を共同で実施するための組織。例えば、消防本部は各市町村に設置されますが、利根沼田地域では5市町村で1つの消防本部を設置し、地域単位で消防署を配置することで5市町村全体の消防を担うこととしています。

とともに、具体的なエリアの設定に向けた調整を行っています。

また、市内の観光施設（玉原ラベンダーパーク）におけるニホンジカによる食害対策について、有害鳥獣駆除に係る技術的アドバイスなどを行っています。



【沼田市：玉原のブナ林】

(2) 片品村

片品村は、『小さくても輝く尾瀬の郷・かたしなの実現へ』をキャッチフレーズとしています。

村の92%を森林が占めており、関東地方からの尾瀬への登山口である大清水峠、鳩待峠があるとともに、スキー場や温泉地もあり、年間を通じて観光客が来村しています。

高原の気候を生かして大根やトマトなどの野菜を中心に栽培しており、観光農園やグリーンツーリズムも推進しています。また、ボタンの製造や精密機械産業が盛んです。

最近では、林業にも力を入れており、地域の森林資源を活用したバイオマス発電施設の整備計画があり、計画的な木材の供給に向けた検討が行われているところです。

また、今年度は群馬県の植樹祭が片品村で実施されます。森林管理署としても共催者として会場設営・運営に参画するとともに、国有林のブースを設けて、私どもの様々な取組を積極的に紹介していくこととしています。



【片品村：令和6年度群馬県植樹祭の予定地（民地）】

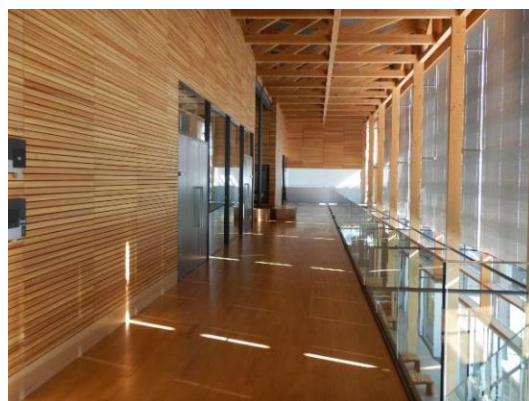
(3) 川場村

川場村は、『田園理想郷』をキャッチフレーズとしています。

村では、村の 86% を占める森林を活用するため、これまでの「農業プラス観光」の基本政策に平成 27 年の川場村の総合計画の中で「林業」をプラスし、環境に配慮した村作りを推進しています。この計画に基づき、木材コンビナート事業を開始し、製材所や木材チップを燃料とするバイオマス発電所を村が整備するとともに、発電所の排熱を活用した温室農業でイチゴを栽培しています。

また、農林産物の直売等の観光産業の育成を推進しており、道の駅田園プラザをはじめ、川場スキー場等の施設には年間 200 万人を超える観光入込があります。

川場村は、利根沼田地域のトップバッターとして森林管理署と森林整備協定を締結し、国有林と民有林が連携し路網の計画・整備を行い共同で利用することとしています。また、川場村長は林業・木材産業に精通されているとともに猟友会の副会長でもあることから、林業・木材産業に係る情報提供や有害鳥獣に係る技術的アドバイスをいただいているところです。



【川場村：内外装と構造に川場産の木材を使用した村役場新庁舎】

(4) 昭和村

昭和村は、『みんなでつくろう、元気な昭和村』をキャッチフレーズとしています。

赤城山の北西麓に広がる広大な農地を有し、農業を基幹産業とした純農村地帯であり、村の森林が占める割合は 40% で、利根沼田地域の市町村の中では少ないですが、準高冷地域の特性を生かし、コンニャクやレタスなど高原野菜を中心に果樹、花き、酪農・畜産など幅広い生産活動が行なわれています。年間を通じて生産される多くの農産物は、首都圏の食卓を賑わしており、地域の特性を生かした「農村立村」の確立を図っています。

近年、ニホンジカによる農作物への食害が大きいことから、村は森林と畑との境に柵の設置

を進めています。また、植林木への食害も発生しており、その防止のためにもシカの頭数削減は重要です。森林管理署としても猟友会へ委託や職員実行により有害駆除を実施しているところです。



【昭和村：職員実行による有害鳥獣駆除(わなを設置しているところ)】

(5) みなかみ町

みなかみ町は、『水と森林と人を育む 利根川源流のまち みなかみ』をキャッチフレーズとしています。

北部は谷川岳など豊かな山々に囲まれた山岳地帯が広がり、森林が町の90%を占めるとともに、利根川の源流としてダム群が形成され首都圏の大切な水源地域となっています。

また、平成29年には、みなかみユネスコエコパークに登録され自然を背景に観光と農業を融合したまちづくりを進めています。

みなかみ町では近年ナラ枯れ被害が拡大していることから、ナラ枯れの原因であるカシノナ

ガキクイムシを誘引捕獲するため、国有林内にナラの丸太を集積し誘引剤を散布した、いわゆる「おとり丸太」を設置することにより駆除を行うとともに、その効果について関係機関等との合同調査等を行っています。

さらに、町民が自然観察や体験林業などの森林に接する機会が得られるような場所の提供について相談を受けており、検討・調整を進めているところです。



【みなかみ町：おとり丸太によるナラ枯れ予防に係る調査】

3 おわりに

利根沼田地域の各市町村役場は、森林管理署と地理的にも比較的近く容易に行き来できる距離にあることから、四半期に1度程度は市町村長にお会いし意見交換するようにしています。

各市町村の課題や国有林に対する要望等もさまざまありますが、耳を傾けお話を伺い、国有林として何ができるか検討し、提案しております。そして、合意できたものから実行に移すこととしています。

また、市町村からの要望等を実行に移すにあたっては、署員の理解と協力が不可欠であり、構想を実行へと導くために内外に丁寧な説明を行うよう心がけています。

今後とも、利根沼田地域の振興に向けて貢献していきたいと考えています。